

精神障害者やひきこもりの人々の社会復帰に向けた 相談支援、農作業、食事療法の包括的支援の有効性の検討

氏 名 小笠原夏子

指導教員 高橋 秀直

要旨

本研究は、日本が直面する人口減少と高齢化に伴い増加する精神障害者やひきこもりの問題に焦点を当て、その具体的な対応策を提案するものである。特に、農作業や食事指導のサポート、相談できる場所の提供といったアプローチを通じて、社会復帰や症状緩和への影響を検討し、持続可能な支援体制を構築することを目指す。これにより、社会復帰の多様な形態を実現し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

精神障害者およびひきこもり状態にある人々が、一般雇用による社会復帰だけでなく、多様な形態で社会と再びつながるための支援策を提案し、包括的な予防策と地域に根差した持続可能なサポートモデルを構築することを本研究の目的とする。具体的には、以下の点を明らかにした。

1. 精神障害者の人口が増加している要因の解明。
2. 精神障害者およびひきこもり状態に陥る背景要因の分析。
3. 社会復帰に向けた主要な障壁の特定。
4. 農作業や食事指導のサポート、相談できる場所の提供が社会復帰プロセスに与える具体的な影響の検証。
5. 症状緩和および社会復帰を促進するための具体的な支援策および予防策の提案。

調査やヒアリングの結果、社会復帰の定義は個人ごとに異なることが確認され、一人ひとりに合わせた個別対応の重要性が示された。また、農業や食事療法、相談支援の重要性が明らかとなり、農作業を通じた精神的安定や生活スキルの向上、健康的な食事の提供による福祉事業所の課題解決、さらにオンライン農園を活用したリモート支援などの取り組みを提案した。

さらに、「健康 BAR」の運営を通じ、一般市民への健康支援や病気予防、フードロス削減を目指す取り組みを行うとともに、B 型支援事業を通じて障害者が健康的な食事作りに取り組み、社会貢献を実感できる場を提供することを構想している。相談支援では、ピアサポートや相互理解を促進し、精神的・身体的負担の軽減を目指している。

これらの取り組みを支えるために、持続可能なビジネスモデルの構築が不可欠であると認識し、ビジネスモデルキャンバスを活用して事業価値、ターゲット顧客、収益の流れ、主要リソース、活動、パートナーシップを明確化した。これにより、障害者やひきこもり状態にある人々の社会復帰を支援し、地域全体で支え合う環境を構築し、ノーマライゼーションの理念に基づく共生社会の実現を目指している。

本研究は、個別対応と多角的な支援アプローチの重要性を示し、農業、食事療法、相談支援を組み合わせた包括的な支援策を提案することで、障害者やひきこもりの支援のみならず、地域全体の健康や福祉の向上に貢献する可能性を示唆している。